

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	名古屋大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	専攻横断型の包括的保健医療職の育成		
主たる研究科・専攻名	医学系研究科看護学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 奈良間 美保		

[教育プログラムの概要]

専攻・分野横断型の系統的な大学院教育プログラムの新設 現代社会の医療ニーズは多種多様になり、看護学およびリハビリテーション療法学(理学療法・作業療法)の各々の専門領域を踏まえながらも、包括的な幅広い医療知識を有する指導的医療者の育成が求められている。本教育プログラムでは、今後予想される超高齢社会を見据えて、従来の各専門領域別の教育プログラムに加えて、専攻・分野横断型の系統的な大学院教育プログラムとして「トータルヘルスプランナー養成コース(THPコース)」を2年間のコースとして博士前期課程に新設し(平成19年4月開設)、包括的保健医療モデルを開発・推進する人材の育成をめざすものである。THPコースでは、医学系研究科の看護学・リハビリテーション療法学専攻の教員を中心に、医学部寄附講座、愛知県等との連携による横断的教育組織によって実施する。

大学院教育の実質化 大学院生は、従来の各専攻の博士課程に所属して、指導教員の下に専門領域の教育研究指導をうけながら、追加して本教育プログラムの「THPコース」に参加する(約20名の参加を想定)。これにより、指導教員の指導の下に専門領域に関する知識技術の習得向上を図るとともに、「THPコース」にて専攻を超えた包括的な幅広い専門知識と技術を習得する。専攻を超えた多彩な講師陣による合同講義・演習・セミナー参加により、様々な研究者の研究に触れることができ、研究交流機会を増大させ、学生自身の知的好奇心を高め、専攻を超えた共同研究の可能性など新たな研究展開の機会を提供する。

教育プログラムの特徴 「THPコース」は、専攻横断型の共通カリキュラムとして、THP概論、特論、演習、セミナーよりなり、修了後にTHP学内認定をする。1年前期の「THP概論」は、入門リテラシーとして、医療行政、疫学研究、システムティック・レビューを学ぶ。1年後期の「THP特論」は、在宅医療および高齢者リハビリテーションに着目した健康増進の方策を学ぶ。2年前期の「THP演習」では、多職種模擬カンファレンスを行い、職種間協働技術、包括的アセスメントを学ぶ。「THPセミナー」は通年で毎月1回開講し、THP関連教員や外部専門家による研究報告を行う。分野の異なる様々な最新の研究活動に触れながら、幅広い科学的思考法や研究企画力などを養う。こうした分野を超えた教育研究経験を基に、後期課程での学際的研究の企画・運営ができる人材育成につなげる。特に、下記の「ライフトピア連携地域支援研究センター(仮)」での分野横断型研究プロジェクトに参加して研究を展開する中で、学際的研究能力の向上を図る。

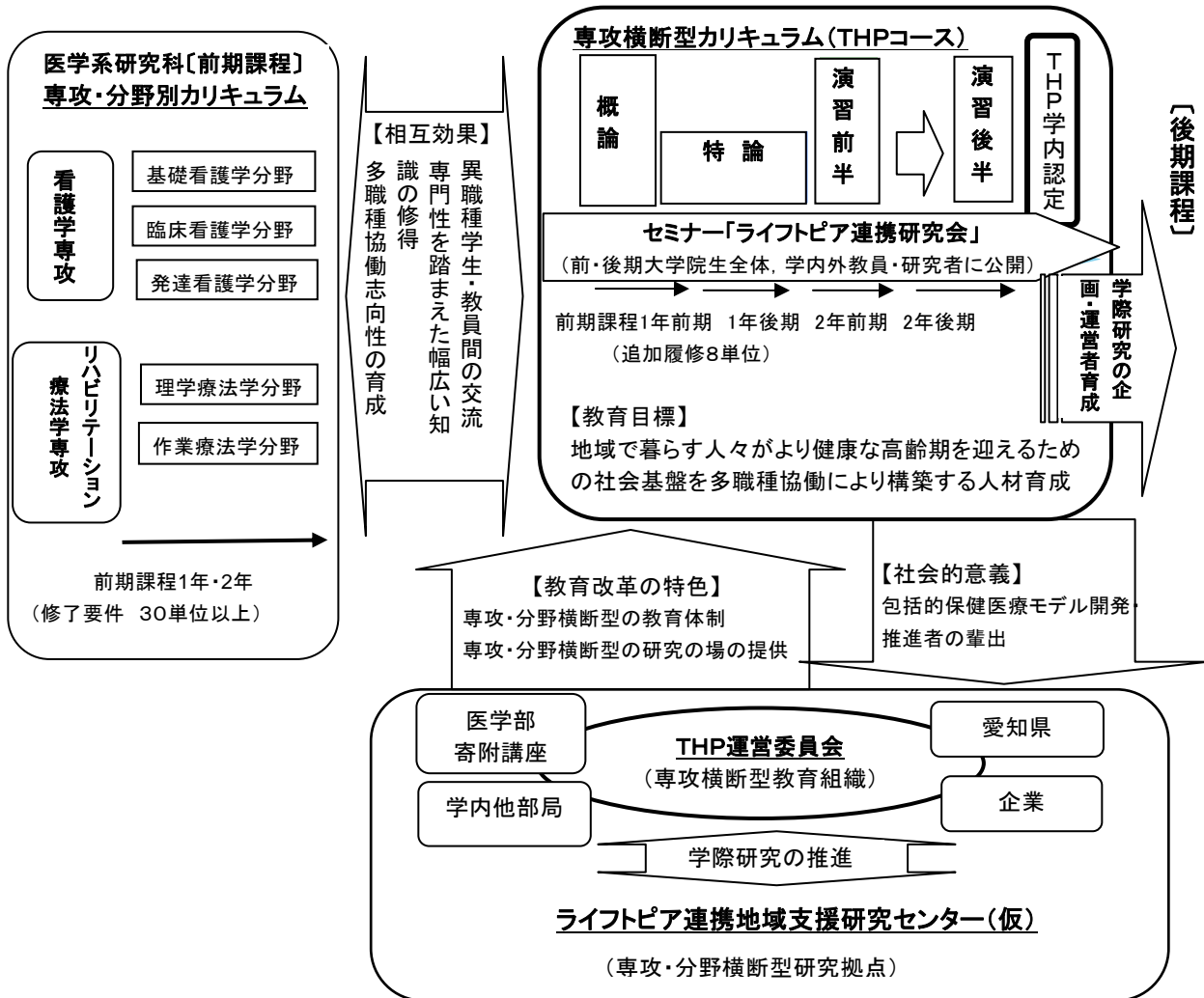
大学院教育研究の運営組織 THPコース担当教員全員によるTHP運営委員会を設けて、指導教員による研究・論文作成上の個別指導に加えて、THP運営委員会として学生の学習研究プロセスに対して集团的支援を強化する。同時に、THPコースの授業評価・改善に恒常的に取り組む。また、定期的に公開シンポジウムなどを開催し、広く地域住民や保健医療職との交流をもつことにより、THPのさらなる役割開発や教育評価を行う。さらに、後期課程の学際研究の企画・運営者の育成という新たな課題にも取り組む。専攻横断型カリキュラムは、専門分化した知識に加えて、包括的教育プログラムを提供するアプローチであり、教員相互の研究交流も図られ、分野を超えた教育研究の展開など、研究科全体の活性化が期待される。

「ライフトピア連携地域支援研究センター(仮)」との連携 本研究科では平成20年の本館改築完成後の面積の約12%(690m²)を研究プロジェクト用として専攻・分野横断型の研究拠点「ライフトピア連携地域支援研究センター(仮)」の整備を計画している。本教育プログラムは、この「研究センター」と連携して、専攻・分野横断型研究プロジェクトの展開など、大学院生の教育研究の実践センターとしての役割を持たせる計画である。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

平成19年度 大学院教育改革支援プログラム

教育プログラムの名称：専攻横断型の包括的保健医療職の育成



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、看護学専攻とリハビリテーション療法学専攻の乗り入れによって、超高齢社会での活躍を期待するトータルヘルスプランナーを養成するという試みは優れている。大学の中で、このプログラムの位置付けがなされ、大学独自にトータルヘルスプランナーとして認定する制度が整備され、既にプログラムが開始しており、実現性も期待できる。

教育プログラムの面では、従来の看護学専攻とリハビリテーション療法学専攻に科目を上乗せする形であり、目的とする人材育成が可能か検討の余地がある。また、トータルヘルスプランナーとしての修了後のキャリアパスの具体策を考慮することも必要である。